
過去…

+悠+

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

過去…

【Zマーク】

Z4385D

【作者名】

+ 悠 +

【あらすじ】

初めての駅伝大会！最高に嬉しかったけど2回走ることにより運命を変えてしまうことになる…過去最低な出来事。陸上という名のすばらしいスポーツに出会った。だけど今はとても辛い。走れなくなる現実

(前書き)

「こんにちは！ + 悠 + です！ 今回で3作目です！

今回は「過去」です！

陸上をやつていて始めての駆伝！

でも、これがきっかけで走れなくなる足になってしまつかもしれないという現実が来たら…

人物の名前は勝手に作ったのですー。『了承ください！

最も悔しい思いをした過去。

今までそのことをたまに引きずつてゐるほどの思い出したくもない過去。

そして、今までに無い後悔をしてしまつ」と

中学1年。夏、7月くらいの出来事だった。

大会が終わつてシード権を取つた自分たちのクラブは駅伝大会の出場を許された。

その時に出るメンバーを選んだ。

もちろん前回の大会で好成績を出した者だけが出る。

その中で選ばれたのが

「小原 悠」「平原 真衣菜」「佐藤 達也」「尾本 友一」「小林 悠磨」「佐藤 翔太」「馬場 朱音」「土屋 伶汰」「平原 萌」「浅海剛」

の10人になった。

今回は10区までの選手登場で男女混合の大会になる。

このことが悪夢の始まりになるのは
だれもが予想しなかつた…

7月14日。駅伝大会が始まる時。

今回は区間で距離がかわる。そのために誰が何処の区間を走るのかはちゃんと決めなくてはならない。

そして一週間掛けて決めたメンバーが

1区	3 km	土屋	怜汰
2区	2 km	馬場	朱音
3区	5 km	平原	真衣菜
4区	6 km	浅海	剛
5区	13 km	佐藤	達也
6区	11 km	尾本	友一
7区	6 km	平原	萌
8区	9 km	小林	悠磨
9区	10 km	佐藤	翔太
10区	15 km	尾原	悠

に決まった。最悪な時点でアンカー一番距離の長くてプレッシャーの高い区間だ。

でも、コーチも皆もそれでOKと言つてくれた。
だからめげずに頑張ることにした…

ついに始まつた駅伝大会。中学生の部といつとも合ひて距離は大人ほどではない。

実力もまだまだだから距離は短い。

だけど元は短距離選手である自分がいきなり長距離の駅伝に出る。それが一番の不安だつた。

でも、コーチが「お前なら出来る」

そういうからその期待にこたえてあげたくて、皆の思いもつまつた襷を受け取りたくて

アンカーを引き受けた。

第1区の人が走り始めて少したつた。

3kmだけ合つてみんな早い。

だんだんと順位が来る中、一人の選手が体調を崩した…

それは5区を走る達也だ…5区は2番目に貴重な場所…

そこで達也が下りたら棄権になってしまいます…

そしてコーチはウチに話しかけてきた：

「5区、走ってくれないか…？」そして達也が苦しそうにしているのも見て

断りきれずに「はい…」という返事をした…

だが5区の番はすぐに来て今からスタートラインに行かなくちゃ行けなくなつた…

そして4区を走っていた剛が襷を手で持つてつらそうな顔をしながら來た。

その襷を受け取つて走り出した自分。

5区を走るのはほとんどが男子で抜かすのは難しかった…

男子と女子の実力の違いは大きすぎるから…

それでもめげずに行くと自分の得意とする上り坂のコース。

ここではほとんどの選手はペースを落とした。

ところがその反面、一人の選手だけは逆にペースを上げていた。

それが自分。

上り坂だけが得意なだけだけど結構人を向かせる。

その時の喜びを始めていった。

そのあとも6区の人には襷を渡すま

での距離は上り坂が多く

上位1位で6区の人には襷を渡せた。

でも、はつきり言つてウチのチームは6区以内からは監査距離選手でペースが速い…

あまり休む時間が無い自分はすぐにアンカーレーンに急いだ。
車に乗つてる時もコーチに「よく頑張った!」「ありがとう!」
そんな言葉を貰いながら…

そして15分くらいしてアンカーレーンに来た。

まだ疲れが取れていらない自分は脹脛がパンパンで歩き方がフラフラになつてしまふ…

アンカーということだけで練習してきたから疲れからの回復の方法が分からぬ…

足がフラフラするのも耐えてアンカーレーンに行く。
そしたらもう9区の翔太が向かつてくる…

やばい…まだ走り終わつてから水の補給もしていない…

脱水症状になりそうな気分…

そんなこと思つていても遅く…

襷を持った翔太が向かつてくる…

「行け!頑張れ!」そんな言葉を残して襷を受け取つた…

スタートから上手くいかず、疲れの残つて足を動かす。

15kmの道を走る自分へのプレッシャー。

そして最後まで走り遂げるかの不安がたまつていつてしまつた…
まだ疲れの取れていない足で何処までやれるか、

Short distance playerの挑戦が始まった…

なんとか保ち、10kmを走りきつた後異変が起き始める。

目の前がクラクラして道がずれてる。

そしてその瞬間に膝と腕に激痛が走る。 そう、倒れてしまつた…

その時に車から見守つてたコーチが降りてくる。

だけど、「コーチが選手に触るとアウト。」

棄権の合図なのでウチはどっさり「来ないでください！」と言つた。
まだ走れるし今棄権したくないと思いコーチが近づいてくるのを拒否した。

そのあとはまた走り始めてやつと13km。あと2km！

その嬉しさとともに後ろから誰かが来るのが分かる…
だけど残りの2kmはほとんどが上り坂という現実。
他の選手はさつきと同じように上り坂でペースが少し落ちる…

その時、自分のペースが上がるのが分かる。
さっきまで後ろに居た選手との距離が15秒。
結構離した。

そのあともペースを落とすこともなくいたとき、思わず事件が起きる。

地面のひび割れの間の大きな穴に足を取られた。

その時、コンタクトも取れてしまい視界がぼやける…

元から視力の悪い自分には悪夢になる…

後ろから選手が来ているの見えないがままに気付かず、なんとか足を抜こうとした時に

無理やり引っ張つたのが運命を変えた…

足首を思いっきり切つてしまい血が出てくる…

視力の悪い自分はその時挾撃な痛みに襲われたが何が起きたのか分からないので向けた足をなんとか立たせて走り出した…

あと500mのところだったので、足を取られてる間に1人の選手に抜かされてしまっていた…

差は19秒…あと500mの時点で抜かせるか抜かせないかの大きな賭け…

それでもまだ上り坂であったためなんとか差を縮めていった。

だけどさつき足首を切ったキズが深かつたため、出血がひどく足に力が入らなくなる…

それでも、あと200mの時点…

諦めずに走った。その結果何とか前に居た選手を抜かし1位に戻った。

でも、それはすぐに逆効果になり「ゴール直前で足首に力が入らず転んでしまった…

そしてさつきの選手は「よっしゃー……」と叫びながらゴールしていく…

それに悔しさを感じてすぐ立ちあと1mを走りきつた…

でも、足が持たずゴールしてすぐ転んだ。

そして泣いた…。

皆すぐに駆け寄ってくれた。

そしてウチはひたすら謝った…

せっかく一位でつなげてくれた襷を2位といつ結果にしてしまふんと…転んで無きやよかつたのにと…

チームの皆も一緒になつて泣いて「悠のせいじゃないよ…」と叫つてくれた。

「その足首でよく頑張った!」「まだ疲れてたのこにく走りきつた!」

そうやつてほめてくれた。

コーチも泣きながら誤つてきた…

「状態も知らずに走らせて悪かった…short distance playerが長距離に慣れていないのに

いきなり2回もの…しかも長い距離を走らせて悪かった…

ほんとにすまなかつた！」声が震えてるから泣きながら叫つてゐるは分かつた。

それでも「自分のせいですかー皆のせいなんかじゃありません…ましてはコーチも

関係ありません。自分があそこで引き受けたですから」

そういうと皆はまた泣き出した…。

足首が切れてるのも知らない自分は一回足首を掴む…

色んな所に血が垂れてるのも気付かない…

ましては今も出血してることは誰も気付かなかつただらり…

足首を掴んでたてを離す。

血がついたのも氣づかない…汗で全身が濡れているようなものだつたから…

氣付かないうちに手についたたくさんの血で顔の汗を拭いてしまつて顔が赤くなる…

それに気付いた真衣菜が自分の愛用していたタオルをウチの顔に近づけて拭いてくれた…

そして水道へ行つて3つタオルを濡らしててくれた達也が一つのタオルを使って顔を拭いてくれる…

真衣菜は足首を濡れたタオルで拭いてくれた。

みんな心配してくれてなんとか治療をしてくれた。

そして後になつてコンタクトが取れてる自分はバックからメガネを取りかけた。

そして初めて気付いた。足首がものすごく赤いのを…

そして道にも血があちこちに垂れているのが…

こりやヤバイと思い、すぐに濡れたタオルを用意して地面に水を掛け血を滲ませた。

皆も手伝ってくれてすぐに終わった。

そしてそのあとは医者に呼ばれ足首の治療をしてもう一膝と腕の消毒もしてもらつた。

そして、治療が終わつたときに指定のウインドブ레이カーを上下着てチームごとに集合して並んだ。

そして結果発表。

結果は

区間特別賞

第一区	土屋	伶汰
第二区	道川	豊
第三区	今井	春
第四区	朝道	冷夏
第五区	尾原	悠
第六区	尾本	友二
第七区	実花	由里菜
第八区	山本	涼
第九区	佐藤	翔太
第10区	露谷	貴史

総合発表

第一位	道代大害組
第二位	黒龍白羽組
第三位	白龍組
第四位	王魂谷組
第五位	サイレント組

という結果になった。

自分らは第一位になった。

その結果発表してる時にいきなり倒れた…

足は麻痺して上手く立てないのだ…

立とうとしてもすぐに足がぐらつき立てない。

それを見た大人達が駆け寄つて、パイプ椅子を用意してくれて座らせてくれた。

麻痺し立てなかつたのは、出血が原因で出血しているのにも関わらず走り続けてたことで

なにかが起きたらしい。

そのあと、なんだか審査員どうしで話しあうことにしてる様子。
そしていきなり審査員の方からの報告。

特別賞として、「尾原 悠」さんに一賞状を与えたいと思いません！

その言葉を聞いたときに普通の人なら「なんでーー?」「するい!」という人がほとんどのやつ…

ところがそうではなく、「さすがー!」など「やつぱりなー」などのほめ言葉がたくさん聞こえてきた。

皆ウチが走つてゐる時に映し出されてたモニターで走りを見てたらし
い…

それで感心して泣いた人もいるとか…

それと同時にみんなからの拍手で嬉し涙を流す自分…
嬉しくて審査員が話してるときもなっていた

帰るときには少し安定期に歩けたよくなつた。
そしてバスになるとも

「尾原さん！」と話しかけられる。

それは総合1位の道代大喜組のメンバーだった。

そして「いい走り見せていただきました！ありがとうございました！」
！」 そういうて皆一斉に
礼をしてくれた。

そしてアンカーで1位争いをした「露谷 貴史」が頭を下げて「あ
りがとうございました！」
といふ。

そして「ゴール前でよっしゃーなんていつてすんませんでした！」
と言つてくる。

それに対してもウチは

「悔しかつたけど、一位のときは嬉しいものだからね～いいんだよ～
普通言つよ～誰でも～」のうかでもね～」

そういうと「ありがとうございました！」 そういうて

「またトラックで一緒に走れること楽しみにしています！今度はS
hort distance player 同士で

走りましょう！」

そういうと礼を行つた。

そして始めての駅伝大会は2位と言つ結果だけども思い出になる大会だったと思います。

諦めずに頑張ることの大切さを知らされる大会だった

。

そして一回クラブに集まってみんなでウォーミングアップをしてる時

コーチに呼ばれ話をしていた…

そして最悪な事実を知らされることになった…

「お前は足に限界がきてるようだ。」そのまま走り続けると走れない足になる。」

そういうわれた瞬間、罪悪感が頭の中をグルグル回った…

「走れないって…なんで」

「わからん。ただ症状は最悪だ。一度と走れない体になりたくないだろう?」

「もちろんです」

「じゃあ治療して、まずは足を治せ」

「わかりました」

「無理をしたら足の命は無いと思え」

「そういわれ当分走ることをやめた…」

「無理に走らなければあんなことにならなかつた…」

自分の決断に大きな間違えが合つたんだと思いかなりの後悔が生まれた。

そして、このことで嬉しかつたことがなくなつたかのようにショックの多い駅伝大会になってしまった…

(後書き)

ありがとうございます！

今回はどうでしたか？

陸上の話です！

待っていた現実。それが最後に聞く最悪なこと「走れなくなる」そんな悲しいことがあつたらいやですよ。でも、今になつてはいい思い出ですよ！

今回はありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4385d/>

過去...

2011年1月26日02時33分発行